

## 第 39 回中部神経内視鏡研究会のご報告

荻原利浩（信州大学／伊那中央病院）

令和 5 年 4 月 8 日（土）に、第 39 回中部神経内視鏡研究会を当番世話人として、松本で開催させていただきました。3 年ぶりの現地開催となりましたが、多くの先生方にご参加いただくことができました。今回は、メインテーマとして「困難症例に対する神経内視鏡手術の挑戦」を掲げ、一般演題では、13 名の先生方に困難な症例に対し、それぞれの施設で神経内視鏡手術を適応し、うまくいった症例あるいは合併症症例などを提示していただきました。限られた時間の中で、建設的で密度の濃いディスカッションができたと思います。また、特別講演では、獨協医科大学から阿久津博義教授をお招きし、経鼻内視鏡手術の tips と合併症対策についてご講演いただきました。すべてのご発表が非常に educational で、今後の診療に役立つものと確信しております。

また、研究会に先立って、中部神経内視鏡研究会世話人会も開催（ハイブリッド）されました。従来開頭顕微鏡手術が必要だった症例に対しても、近年では神経内視鏡手術で対応できる症例が増えており、また、患者や社会が求める低侵襲治療が推奨される風潮などから、とくに若手脳神経外科医に神経内視鏡学会技術認定資格取得希望者が増加しております。これは、至極当然の流れと思われれます。しかしながら、一方で、実際どの程度の施設で神経内視鏡手術を積極的に取り入れているのか、あるいは顕微鏡手術から神経内視鏡手術への移行を推進しているのか、現状を正確に把握できていないのも事実です。こういった課題を解決し、さらに神経内視鏡手術を発展させるために神経内視鏡手術のメッカといわれる中部地区から何ができるか、国際医療福祉大学三田病院の大山健一教授に陪席でご参加いただき、今後の我々の在り方、すべきことについて議論することができました。今後も継続的に中部神経内視鏡研究会世話人会の activity を発揮し、中部地区から、全国、あるいは世界に中部神経内視鏡研究会のプレゼンスをアピールしていければと思います。

今回の研究会開催にあたり、きめ細やかなご指導を賜りました加藤庸子代表世話人はじめ、ご支援、ご協力いただきました中部神経内視鏡研究会世話人の先生方、松本までお越しいただき研究会にご参加くださった先生方のご協力とご指導、またご支援に深く感謝申し上げますとともに、先生方の更なるご活躍とご発展を心より祈念いたします。